

3月号 ライフコートたより

22年3月10日 発行

株式会社 ハートケア

編集 宮本

バンクーバーオリンピック (女子フィギュア特集)

フィギュアスケートは25日、女子フリーを行い、ショートプログラム(SP)2位の浅田真央は、131.72点、合計205.50点で銀メダルを獲得した。同首位のキムヨナ(韓国)が、フリー150.06点、合計228.56点で世界歴代最高得点で優勝。

SPからの逆転を目指した浅田は、ラフマニノフの前奏曲「鐘」に乗り、2度のトリプルアクセルに成功したが、細かいミスが出た。

5年間で身長が10センチ以上伸びた体の変化や、2シーズン前にあった、ルッツとフリップの踏み切り判定の厳格化への対応の遅れなど、理由はいろいろあるが、練習環境にも問題がある。

浅田は名古屋、コーチのタラソワ氏はモスクワと拠点が別々。「日本にいたい」という浅田の意向を尊重したが、昨年のロシア杯で5位と惨敗。その夜、ホテルでタラソワ氏から、「モスクワで練習するか」と打診されても、「日本でやりたい」と拒んだ。コーチ不在では苦手なものなかなか克服できない。苦手の3回転ルッツの克服は挫折。トリプルアクセル頼みのプログラムになってしまった。

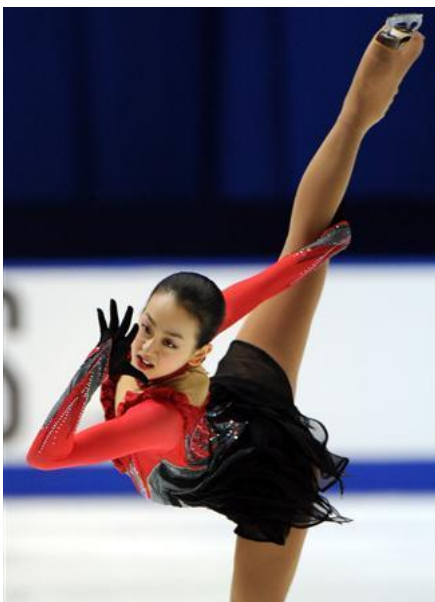
それでも五輪で女子では、世界で初めてのトリプルアクセルを計3回決め、自己ベストを更新した。

本来なら手放して喜んでいい快挙だ。しかし大事な場面で、ミスを重ねてしまい、キムヨナに23点余りの大差をつけられてしまった。

信じて取り組んできたやり方は快挙こそ成しえたが、金メダルとゆう夢を叶えるものではなかった。

「五輪は4年に一度しかない。悔いが残りますし、悔しい思いがある。」と語った浅田は、引退の可能性のあるキムヨナに対して、「勝ちたいという思いはあるので、引退するとしてもキムヨナ選手が出した得点の記録は残るので、自分が早く塗り替えられるように頑張りたい。」とすでに浅田の目は次のソチ五輪へと向けられていた。今回の悔しさを生かせば、4年後はうれし涙を流せるはずだ。

表彰式後、国旗を羽織り
ファンに手を振る浅田選手 →
↓フリーで演技する浅田選手



↑オリンピックを終え
羽田に着いた浅田選手

デイサービス フィット貝塚

2月17日に和泉リサイクル環境公園に

梅の花と水仙の花を見に行きました。



この日は天気も良く、暖かい日差しの中

皆さん **ウイウイ** 言いながら、お花見を

楽しんでおられました。



2. 24 フラワーアレンジメント

2月24日には、先生に来て頂き、フラワーアレンジメントをしました。

現在月に2回先生に来て頂き、皆様にフラワーアレンジメントをしていただいておりますが、

皆様からは、「毎週したい」との声をいただくほど、皆様大好きな時間のようで、嬉しいかぎりです。



← 梅の花 Ver



水仙の花 Ver →

